

第一部会（第25期・第8回）

議事要旨

日時：令和5年4月18日（火）13：30～15：00

場所：日本学術会議5-A（1）（2）会議室及びオンライン会議システムも併用して開催

出席者：有田 伸、岩井 紀子、宇山 智彦、大久保 規子、大竹 文雄、大山 耕輔、岡崎 哲二、勝野 正章、上東 貴志、苅部 直、川嶋 四郎、行場 次朗、栗田 禎子、黒崎 卓、小長谷 有紀、小林 傳司、坂田 省吾、佐藤 嘉倫、佐野 正博、白波瀬 佐和子、鈴木 基史、高橋 裕子、高村 ゆかり、高山 佳奈子、西尾 チヅル、西田 眞也、西山 慶彦、野口 晃弘、芳賀 満、橋本 伸也、原 拓志、原田 範行、日比谷 潤子、松井 三枝、松原 宏、馬奈木 俊介、三尾 裕子、溝端 佐登史、三成 賢次、南野 佳代、森口 千晶、矢野 桂司、山田 八千子、吉岡 洋、吉田 文、吉田 和彦、吉水 千鶴子、若尾 政希、和田 肇、渡部 泰明

<議題>

（1）前回議事要旨の確認

（2）報告事項

- ・第一部活動報告：2月2日の第8回拡大役員会、3月27日の第9回拡大役員会、および第一部役員会に関する報告
- ・分野別委員会・分科会の活動状況
- ・部附置分科会の活動状況
- ・幹事会等での取組について

（3）審議事項

- ・令和5年度第一部審議関連予算の配分について（資料3-1～3-4）
溝端佐登史副部長より資料に基づき説明があった。既に4月1日から活動を開始しており、拡大役員会で承認されたものの追認をお願いしたい。従来どおり各分野別委員会で自己管理する。令和5年度下半期は第26期メンバーによる執行になるため、予算を温存している。橋本伸也部長より、この形式の執行表を作成しているのは第一部のみだが、計画的な執行への寄与度が大きく事務局に感謝したいとの発言があった。

→ 3月27日拡大役員会配布の2文書について：承認（追認）

- ・意思の表出の承認案の提出期限について（資料4、5-1、5-2）

橋本伸也部長：第一部では1月末日までに案文を提出、対応委員会からの助言

が出た時点で書き直すこととして、4月末日は超えない範囲で軽微であれば短め、大きければ長めの修正期間を設定し、現在修正版が提出されつつある。第一部から『学術の動向』に掲載されたものと大幅に内容が重複する意思の表出があった。今期は科学的助言の質の担保について強い危機感を持って作業を進めており、厳しく対応せざるを得ない。日本学術会議としての著作物にふさわしい手続きを踏んで進めてもらいたい。

溝端佐登史副部長：連絡会議との横のつながりにも配慮してほしい。時期は弾力的に対応すると対応委員会から連絡済である。

佐藤嘉倫会員：質の担保については、会員・連携委員会全員に対して対応委員会等から統一的に注意喚起をした方がよい。

溝端佐登史副部長：他部でも問題となっている。全体に対する注意のみでは、意味が伝わらないかもしれない。

橋本伸也部長：現在の仕組みは、今期に運用を開始した。報告は部による査読を行っている。分野別委員会の能力を高めてもらいたい。前期まで分野別委員会の役割が希薄化していたが、幹事会はその機能を高める必要があると意識している。

白波瀬佐和子会員：何が問題だったかを明確にしてもらいたい。分野別委員会の能力強化は別の問題ではないか？

佐野正博会員：自己盗用についての情報をチャットで送信した。

橋本伸也部長：分野別委員会が査読をする。今回は、そのチェック漏れになる。『学術の動向』イコール日本学術会議の文章ではない。査読依頼にはぜひ協力してもらいたい。

小長谷有紀会員：論文査読でも、覆面でないケースがある。覆面でなくてもよいのではないか。限られた候補の中から査読者を探すのは大変である。

橋本伸也部長：問題提起の内容は理解する。査読不正については、学術会議に審議依頼があった。

小林傳司会員：査読不正に関する委員会が議論を進めているところである。まもなく会員を対象にアンケートを実施し、各分野がどのように査読を行っているかを調査するので協力してほしい。

白波瀬佐和子会員：学術会議としての意思の表出の査読は、論文とは異なるのではないか。

橋本伸也部長：今期に作られた査読の在り方については、意見聴取の必要性を認識している。

(4) その他

・令和5年度夏季部会について

橋本伸也部長：現時点で具体的な計画はない。必ず臨時総会があるので、その折に夏季部会を開催することを検討したい。形式は、昨年のようなもの想定している。

以上